

ナゲットプロファイラー 操作手順書

再設定モードの使用方法

作成日：2019年6月3日

再設定モードとは



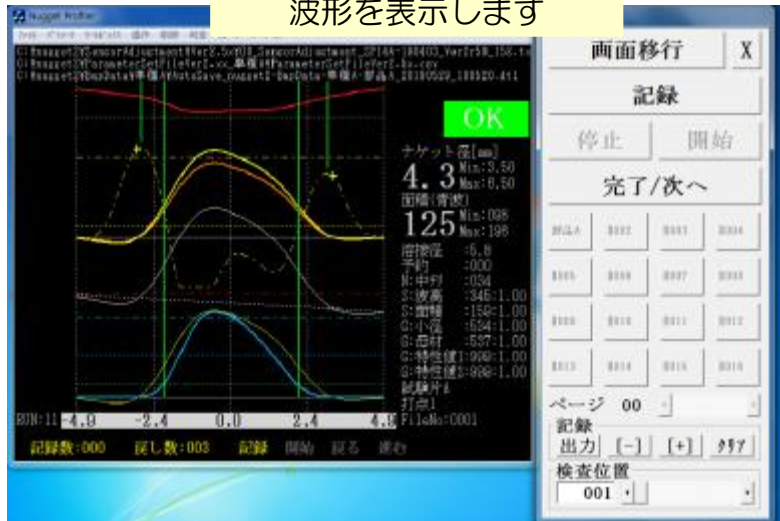
一度作成したパラメータファイルの変更・修正を行うとき、再設定モードを使用します。

再設定モードに移行すると、パラメータファイル・パラメータ作成時の波形データを読み込み、画面に表示します。

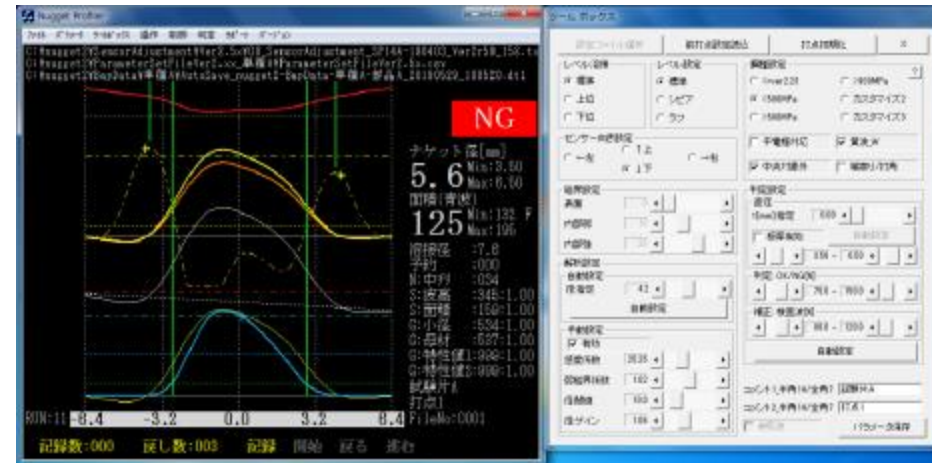
パラメータを変更する時は以下場合があります。

- OK/NG判定基準を変更・追加したい。
- パラメータ作成時に登録した径と破壊径が大きく異なっていた。

検査結果を読み込み
波形を表示します



パラメータの変更・修正を行い、
径やOK/NG判定を変更します



ナビモード設定までの操作

Step1.再設定モード・管理者モードへ移行する

使用ソフト：Nugget

Step2.パラメータファイルを変更する

Step3.パラメータファイル・検査データを保存する

Step4.Step2、3を繰り返す

Step5.写真に検査結果を再登録する

使用ソフト：Bmplimage

ナビモード設定までの操作

Step1.再設定モード・管理者モードへ移行する

使用ソフト：Nugget

Step2.パラメータファイルを変更する

Step3.パラメータファイル・検査データを保存する

Step4.Step2、3を繰り返す

Step5.写真に検査結果を再登録する

使用ソフト：Bmplimage

Step1.再設定モード・管理者モードへ移行する

Step1-1.再設定モードへ移行する



1.Nuggetを起動し、「ナビ記録」ダイアログからパラメータを変更したいパーツを登録したボタンを選択します。



2.ナビモードの写真が表示されます。

3.画面左上「パラメータ」→「再設定モード」をクリックします。

Step1-1.再設定モードへ移行する（つづき）



4.「再設定モード」ダイアログが起動します。
以下が入力されています。

- データ選択：パラメータ作成時の波形データ
- 写真選択：ナビモードの写真のリンク

5.「データ選択」欄がNULLの場合は「データ選択」をクリックしてください。

C:\nugget2¥Dataフォルダが開きます。

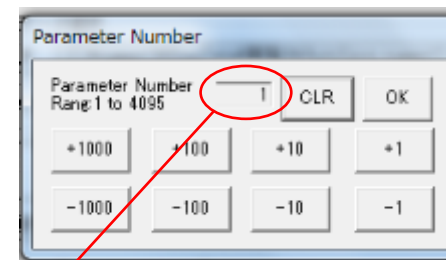
その中から、パラメータ作成時のデータ またはナビモードを用いて検査したデータを選択してください。

ナビモードを用いずに再設定する場合

5.1.「ナビモード使用」の☑を外します。

5.2.「ファイル選択」をクリックし、
変更するパラメータファイルを選択します。

5.3.「Parameter Number」
ダイアログに変更する
パラメータ列を入力します。



	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	Parameter\	251								
2	パラメータ番号コン1(全角)	コン2(全角)	ホールド機	AS:設定	径AS:判定	径AS:判定	径AS:設定	径AS:判定	径AS:判定	径AS:判定
3	0	default	default	0	4.5	6.5	3.5	0	150	75
4	1	試験片A	打点1	0	4.2	6.5	3.5	0	150	75
5	2	試験片A	打点2	0	4.2	6.5	3.5	0	150	75
6	3	試験片A	打点3	0	4.2	6.5	3.5	0	150	75
7	4	comment	comment	0	4.5	6.5	3.5	0	150	75
8	5	comment	comment	0	4.5	6.5	3.5	0	150	75
9	6	comment	comment	0	4.5	6.5	3.5	0	150	75
10	7	comment	comment	0	4.5	6.5	3.5	0	150	75
11	8	comment	comment	0	4.5	6.5	3.5	0	150	75

Step1-1.再設定モードへ移行する（つづき）

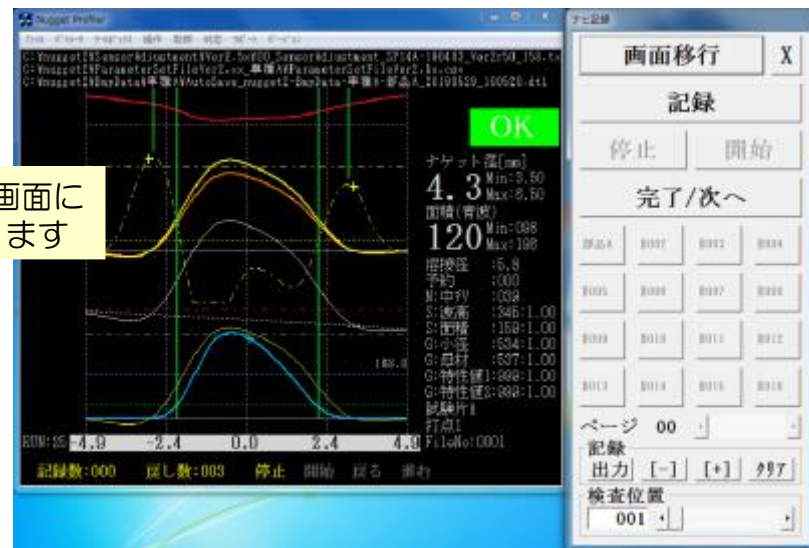


6. 「OK」をクリックすると、4で選択したパラメータファイル・過去の検査データが読み込まれます。

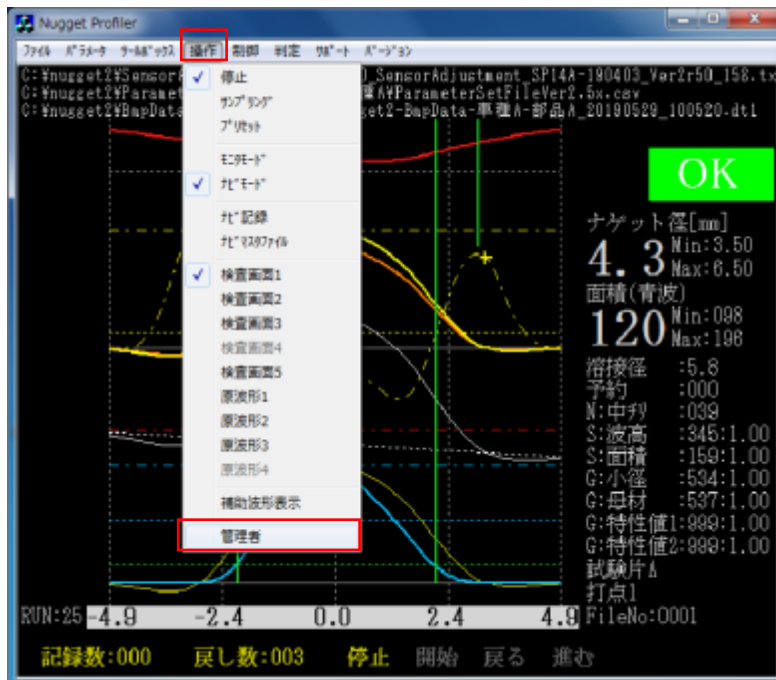
7. 「ナビ記録」ダイアログ内の「画面移行」をクリックすると過去の検査データ波形が表示されます。



検査波形の画面に切り替わります

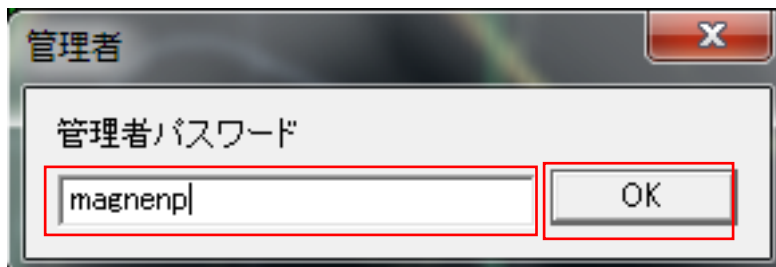


Step1-2.管理者モードへ移行する



1.画面上「操作」→「管理者」をクリックします。

2.「管理者」ダイアログが立ち上がります。



3.パスワード：「magnenp」を入力し、「OK」をクリックします。

4.「パスワードが一致しました。
管理者モードに移行します。」
のメッセージが出るので「OK」をクリックします。

ナビモード設定までの操作

Step1.再設定モード・管理者モードへ移行する

使用ソフト：Nugget

Step2.パラメータファイルを変更する

Step3.パラメータファイル・検査データを保存する

Step4.Step2、3を繰り返す

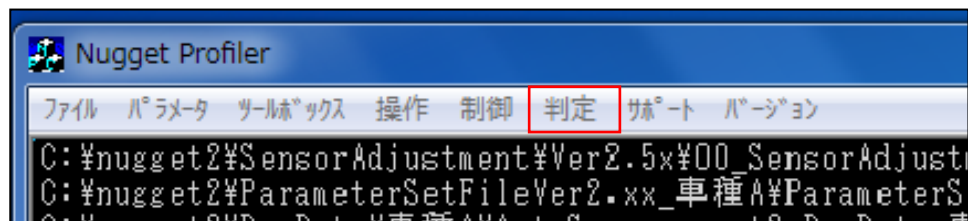
Step5.写真に検査結果を再登録する

使用ソフト：Bmplimage

Step2.パラメータファイルを変更する

Step2-1.判定基準を変更する

1.画面左上「判定」をクリックします。



2.「判定」ダイアログが立ち上がります。

ボックスに☑が入っている判定が有効になります。
OK判定の上限と下限を入力してください。

下記5項目でOK/NG判別を行うことができます。

1. 「ナゲット径（青波:ナゲット）」
2. 「ナゲット径規格外（青波:ナゲット）」
3. 「N面積（青波:ナゲット）」
4. 「溶接径（黄波:強磁界）」
5. 「N中チリ（青波:ナゲット）」

「補正」の項目を用いることで検査波形に補正をかけ、
OK/NGをはっきり判別できるようにします。

判定

ナゲット径(青波ナゲット)
☒ 3.50 6.5

ナゲット径規格外(青波ナゲット)
☐ 3 7

N面積(青波ナゲット)
☒ 97 195

溶接径(黄波強磁界)
☐ 4.2 7.2

予約
☐ 100 500

N中チリ(青波ナゲット)
☒ 1 100

補正

S波高(黄波強磁界)
☒ 273 409

S面積(黄波強磁界)
☒ 124 186

G小径
☐ 431 646

G母材
☐ 429 643

G特性値1
☐ 799 999

G特性値2
☐ 799 999

OK キャンセル

Step2-1.判定基準を変更する（つづき）

- ナゲット径（青波:ナゲット）
ナゲット径（青色波形の径）を用いてOK/NG判定を行います。
- ナゲット径規格外（青波:ナゲット）
ナゲット径のWarningOKの範囲を指定します。画面には黄色でOK表示されます。
- N面積（青波:ナゲット）
青色波形の面積（溶接の溶け込み具合）を用いてOK/NG判定を行います。
- 溶接径（黄波:強磁界）
溶接径（黄色波形の径）を用いてOK/NG判定を行います。
- N中チリ（青波:ナゲット）
中チリ（溶融金属が外に飛び出す）の判定を行います。波形の歪さから推測します。

判定

ナゲット径(青波ナゲット)
☒ 3.50 6.5

ナゲット径規格外(青波ナゲット)
☐ 3 7

N面積(青波ナゲット)
☒ 97 195

溶接径(黄波強磁界)
☐ 4.2 7.2

予約
☐ 100 500

N中チリ(青波ナゲット)
☒ 1 100

補正
S:波高(黄波強磁界)
☒ 273 409

S:面積(黄波強磁界)
☒ 124 186

G:小径
☐ 431 646

G:母材
☐ 429 643

G:特性値1
☐ 799 999

G:特性値2
☐ 799 999

OK キャンセル

- 補正
S:波高（黄波:強磁界）
黄色波形の波の高さを用いて補正をかけます。

- S:面積（黄波:強磁界）
黄色波形の面積を用いて補正をかけます。

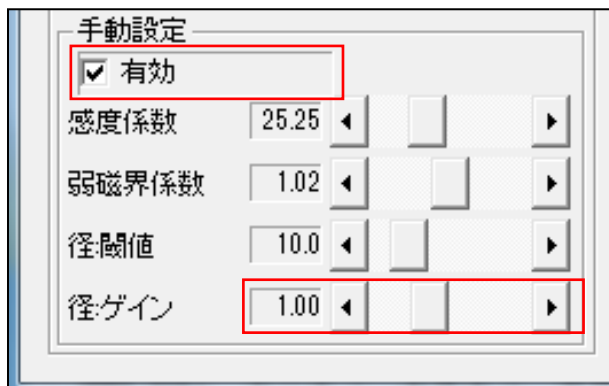
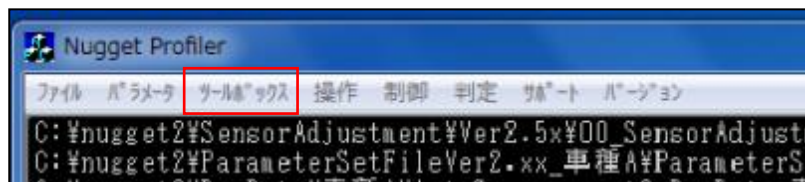
以下（Gの項目）は特性値と呼ばれる項目を用いて補正を行います。NPは磁気抵抗の他に様々な磁気情報(特性値)を算出しています。その特性値の中で有用な項目を用いて補正をかけます。

- G:小径
NG品（径が小さいもの）に有用な可能性がある項目です。

- G:母材
母材に有用な可能性がある項目です。

- G:特性値1、特性値2
メーカー側で解析・指定した項目です。

Step2-2.検査径を変更する



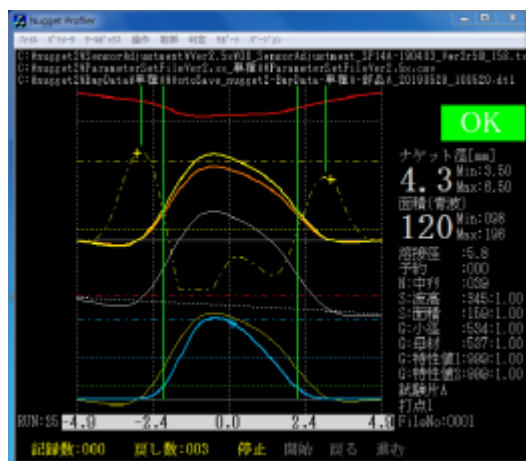
1.画面左上「ツールボックス」をクリックします。

2.ツールボックス内「手動設定」の「有効」に☑を付けます。

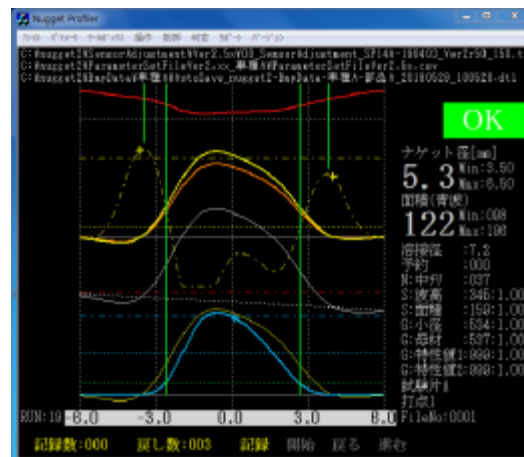
3.「径:ゲイン」変更し、検査径を調整します。
他項目は基本的に変更しません。

例

径ゲイン : 0.81
検査径 : 4.3mm



径ゲイン : 1.00
検査径 : 5.3mm



径ゲイン
調整後

ナビモード設定までの操作

Step1.再設定モード・管理者モードへ移行する
使用ソフト：Nugget

Step2.パラメータファイルを変更する

Step3.パラメータファイル・検査データを保存する

Step4.Step2、3を繰り返す

Step5.写真に検査結果を再登録する
使用ソフト：Bmplimage

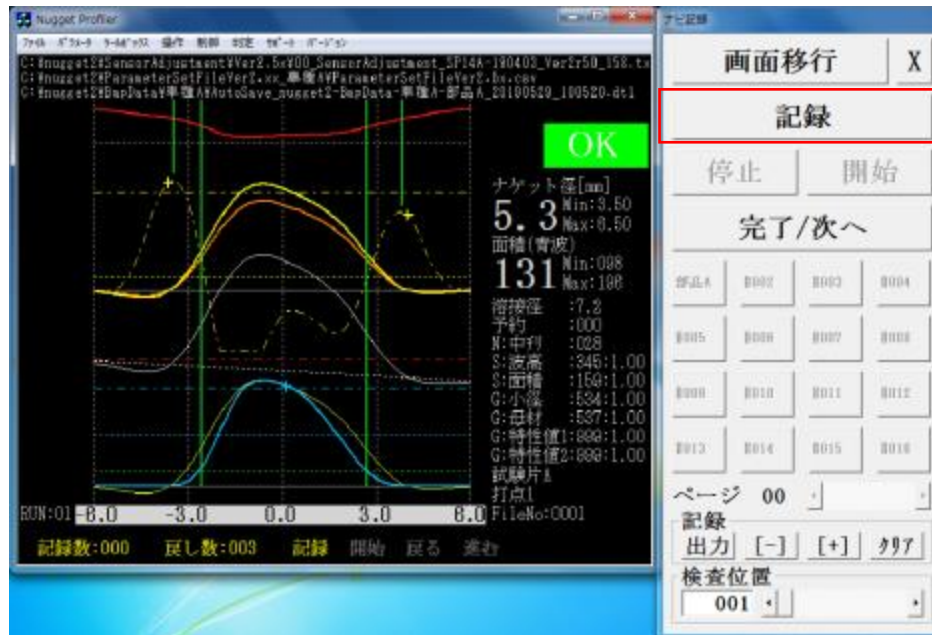
Step3.パラメータファイル・検査データを保存する

Step3-1.パラメータファイルを保存する



1. ツールボックス右下「パラメータ保存」をクリックし、パラメータファイルを上書き保存します。

Step3-2.検査データを保存する



2. 「ナビ記録」ダイアログの「記録」をクリックし、検査データを保存します。

ナビモード設定までの操作

Step1.再設定モード・管理者モードへ移行する

使用ソフト：Nugget

Step2.パラメータファイルを変更する

Step3.パラメータファイル・検査データを保存する

Step4.Step2、3を繰り返す

Step5.写真に検査結果を再登録する

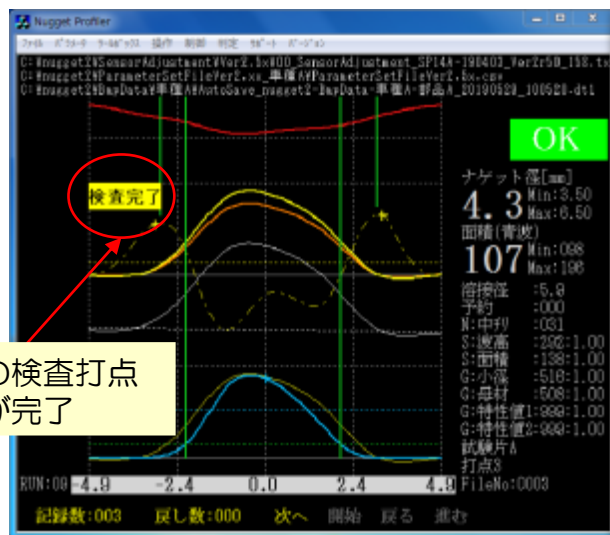
使用ソフト：Bmplimage

Step4.Step2、3を繰り返す



1.画面が次の検査打点写真に移行します。

2.「ナビ記録」ダイアログ内の「画面移行」をクリックし、波形画面に移行します。

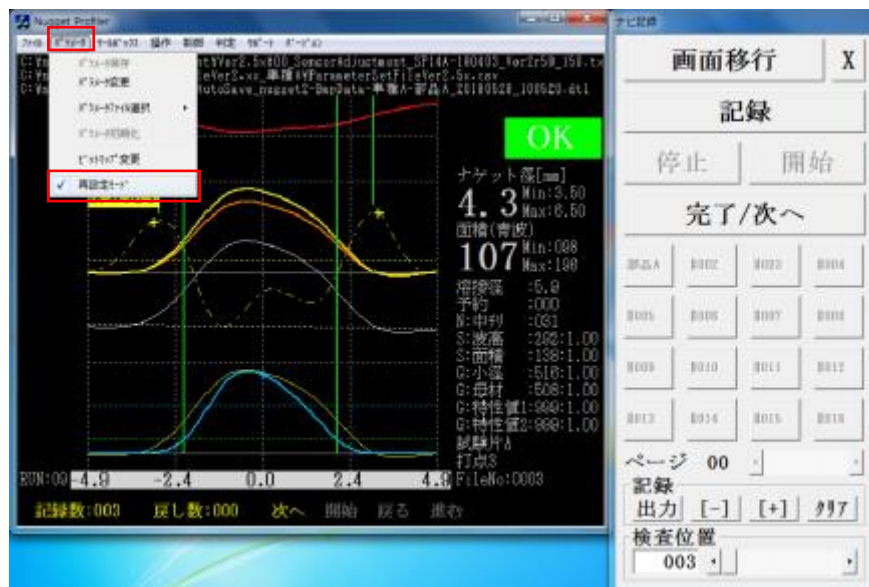


最後の検査打点
が完了

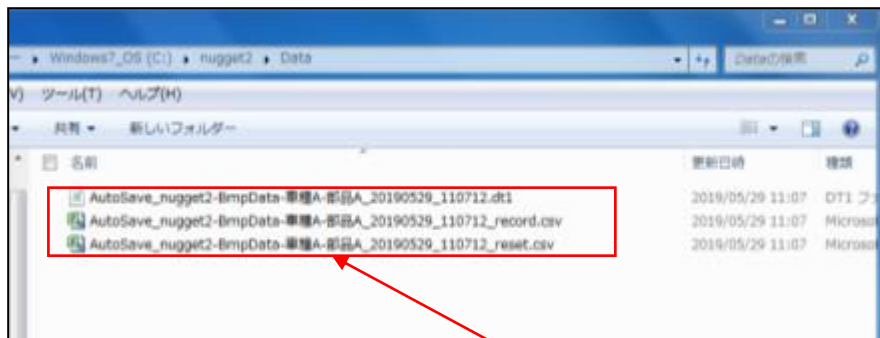
3.最終打点までStep2、3を繰り返します。

4.最終打点の検査データの保存を行うと
画面に「検査完了」が表示されます。

Step4.Step2、3を繰り返す（つづき）



5.画面左上「パラメータ」→「再設定モード」をクリックし、再設定モードを終了します。



6. C:\¥nugget2¥Data フォルダ内に検査データが保存されます。

「.dt1」「record.csv」「reset.csv」
の3種類が保存されます

ナビモード設定までの操作

Step1.再設定モード・管理者モードへ移行する

使用ソフト：Nugget

Step2.パラメータファイルを変更する

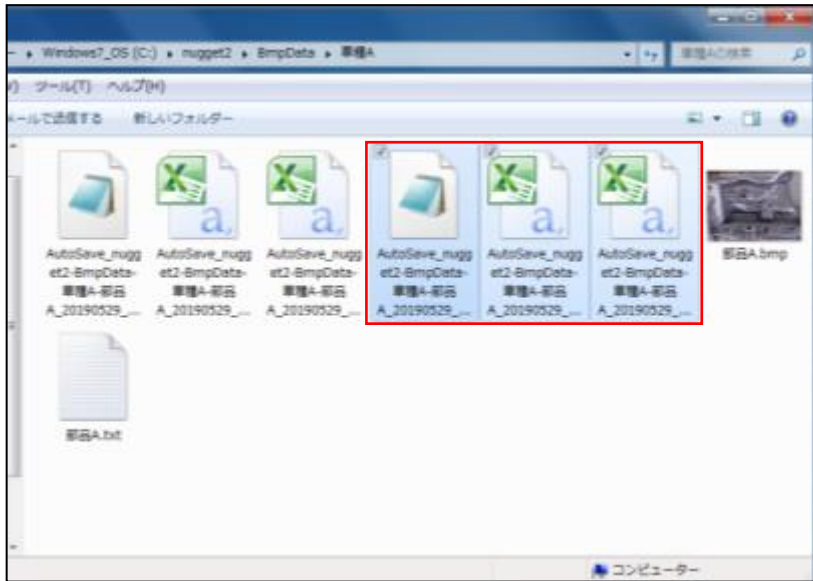
Step3.パラメータファイル・検査データを保存する

Step4.Step2、3を繰り返す

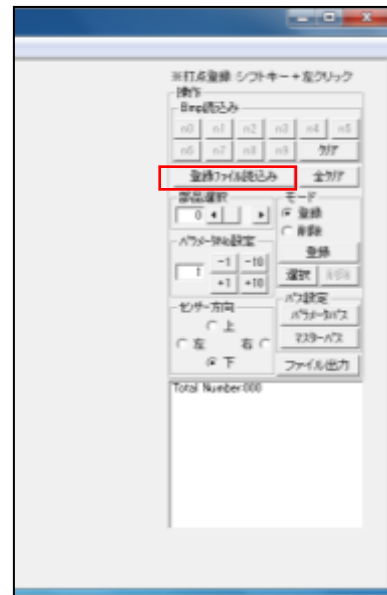
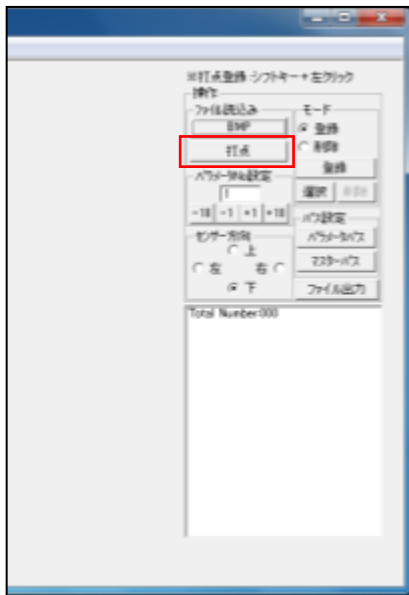
Step5.写真に検査結果を再登録する

使用ソフト：Bmplimage

Step5.写真に検査結果を再登録する



1. Step4-6で保存した検査データを C:\nugget2\BmpDataフォルダ内の 写真の名称のフォルダ内に移動します。



2. デスクトップにある「BmpImage.exe-ショートカット」をクリックし、打点登録ソフトを起動します。
3. 「登録ファイル読み込み」または「ファイル読み込み」→「打点」をクリックします。

Step5.写真に検査結果を再登録する（つづき）

4.写真の名称フォルダ内のtxt.データを選択します。

5.検査打点の写真が表示されます。
「パス設定」→「マスターパス」をクリックします。

6.Step5-1で移動したreset.csvデータを選択します。

（.dt1データ、reset.csvデータのどちらを選択しても問題ありませんが、reset.csvデータの方が時間平均回数が少なく、より精度の高いデータになります。）

7.新しいマスターパスが登録されます。
「ファイル出力」をクリックし、保存します。

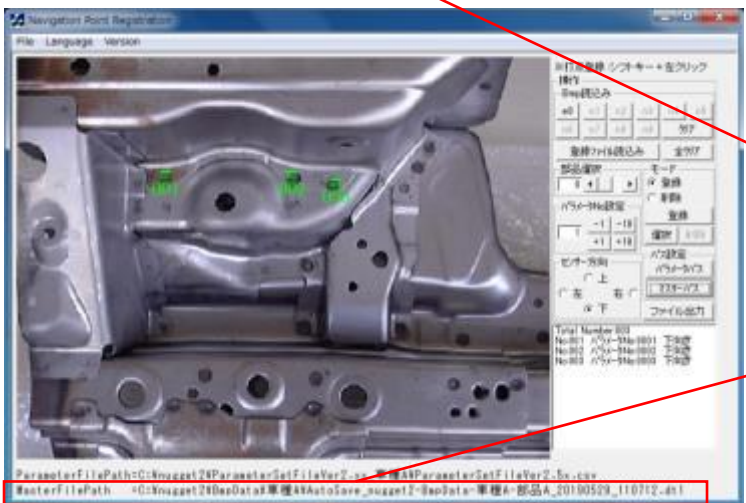
~~ParameterFilePath=C:\Vnugget2\ParameterSetFileVer2.xx 車種A\ParameterSetFileVer2.5x.csv
MasterFilePath =C:\Vnugget2\BmpData\車種A\AutoSave_nugget2-BmpData-車種A-部品A_20190415_153540.dt1~~



マスターパスが変更されます

ParameterFilePath=C:\Vnugget2\ParameterSetFileVer2.xx 車種A\ParameterSetFileVer2.5x.csv
MasterFilePath =C:\Vnugget2\BmpData\車種A\AutoSave_nugget2-BmpData-車種A-部品A_20190529_110712.dt1

操作は以上で完了です。



EOF